

## 山の百の花

## 岩崎 一郎

## 【35】ヤナギラン

アカバナ科アカバナ属の多年草で、日本では本州中部以北と北海道に、世界ではヨーロッパ、アジア、アメリカの各地に分布、山地や亜高山の草原に自生している。草丈は 1 m ～ 1.5 m で、ピンク色の可憐な花を咲かせる。

ヤナギランとインプットされて、ぼくの頭ですぐ思い浮かぶのは、北沢長衛小屋の前庭である。6 畳くらいの広さにヤナギランが群生していて、ピンクの花を咲かせ、微風にゆらめいていたのである。

前々日、キャンプ場にテントを張って、翌日、無名山塾の若い仲間と摩利支天峰の南山稜を登攀した。力不足で時間を要し、駒津峰で日が暮れて、まっ暗の中をキャンプ場に下ったのだった。

その日、朝寝坊してテントを撤収、バス停に向かう我々を、やさしく見送ってくれたのが、北沢長衛小屋の前のヤナギランであった。

次に思い出すのがシャモニ。マルティー

ニからシャモニに向かう電車が、峠を下りシャモニに近づく頃、線路際にヤナギランが群生していたのだ。まっ白なモンブラン山群をバックにしたピンク色は、これから始まるシャモニ周辺でのハイキングの楽しさを予感させてくれるに充分であった。



## 【36】ギンラン

ラン科キンラン属、ぼくが手にしている山野草の本のキンランの項には、生態についての記述がない。同じラン科キンラン属にキンランがあって、生態は多年草と説明されていたから、ギンランも多年草なのであろう。キンランではなくギンランを取り

上げたのは、初めて出会ったとき、どなたかが「キンランはよく見かけるけど、ギンランは珍しいのよ」とおっしゃって、その言葉が耳の底に残っていたからだ。それなのに、いま手にしている本（1998年発行）には、キンランの方に「Ⅱ類絶滅危惧種」というレッテルが張ってあった。

キンランの花は黄色く、ギンランは白、キンランに対応してのギンランという命名なのであろう。分布は本州、四国、九州、朝鮮とある。ぼくが出会ったのは九州、祖母山の登山道であった。

祖母山は日本百名山であり、ぼくの新旧本百名山でもあるので、5 ～ 6 回は登っている。一度だけ 9 合目の小屋に泊まり、傾山に縦走したのを除いては、毎回、北谷登山口からの往復である。北谷登山口からのコースは登り易いので安心だ。国観峠から先が急になり、泥々となるが、まっ、それも愛嬌ということで。山頂に立ち下山してきたとき、千間平より下の道端にギンランが咲いていた。キンランも咲いていた。祖母山はぼくにとって、キンラン、ギンランの山ということになっている。